

# 視察調査報告書

委員会名	建設環境委員会
参加者	委員長 中根 武彦 副委員長 酒井 正一 委員 伊藤 正義 白井 正樹 佐藤 哲朗 畑尻 宣長 鈴木 静男 加藤 義幸
視察日時	令和8年1月20日（火） 13:30～15:00
視察先・概要	東大阪都市清掃施設組合 大阪府東大阪市 人口：477,481人 世帯数：252,490世帯 面積：61.78 k m <sup>2</sup> 大阪府大東市 人口：115,377人 世帯数：58,518世帯 面積：18.27 k m <sup>2</sup>
視察項目	広域ごみ処理施設、第五工場及び第六工場について
視察概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 東大阪都市清掃施設組合の概要               <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成市町村 東大阪市、大東市</li> <li>・敷地面積 約35,000m<sup>2</sup></li> <li>・用途区域 工業地域</li> </ul> </li> <li>2 ごみ搬入量（令和6年度）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般ごみ 171,136トン</li> <li>・粗大ごみ 6,756トン</li> <li>・缶・びん 3,284トン</li> <li>・ペットボトル 1,476トン</li> <li>・その他プラごみ 3,615トン</li> </ul> </li> <li>3 施設組合運営費（令和6年度）               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歳出                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費 5,384,168千円</li> </ul> </li> <li>(2) 歳入                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・売電 930,394千円 ※太陽光発電分を含む</li> <li>・破碎後金属、灰中金属 27,975千円 ※アルミ系含む</li> <li>・オーバーホール金属 3,345千円</li> <li>・ペットボトル 99,886千円</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>4 ごみ処理施設整備事業               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第五工場                   <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 工事内容 第五工場建設工事、粗大ごみ処理施設建設工事（合棟）、土壌汚染対策工事</li> <li>イ 建設工事費</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

15,004,500千円（消費税5%込）

ウ 工事費内訳

国庫補助 4,696,918千円、起債 9,126,100千円、一般財源  
1,181,482千円

エ 受注者

JFEエンジニアリング（株）大阪支店

オ 工事期間

平成25年度～平成28年度

(2) 第六工場

ア 工事内容

第六工場建設工事（管理棟含む）、第三工場解体撤去工事、土  
壌汚染調査・土壌汚染対策工事

イ 建設工事費

32,318,000千円（消費税10%込）

ウ 工事費内訳

国庫補助 7,861,229千円、起債 19,779,000千円、一般財源  
4,678,771千円

エ 受注者

カナデビア・前田建設特定建設工事共同企業体

オ 工事期間

令和5年度～令和12年度

5 ごみ焼却施設の概要

(1) 第五工場

ア 焼却炉

400トン／日（200トン／日×2炉）ストーカ方式

イ 設備の特徴

低空気比燃焼、8段式低温エコノマイザ、低温触媒脱硝

ウ 余熱利用

全量を発電に利用し、自家消費以外の余剰電力を売却

(2) 第六工場

ア 焼却炉

238トン／日（119トン／日×2炉）ストーカ方式

イ 設備の特徴

低空気比燃焼、ショックパルススートブロウ、集じん灰再循環  
システム、触媒脱硝

ウ 余熱利用

全量を発電に利用し、自家消費以外の余剰電力を売却

6 現在の課題

リチウムイオン電池による火災

7 今後の展開

製品プラスチックの収集及び再商品化の実施についての検討

所 感

※視察しての感想  
や岡崎市への提  
言など

- ・今回の視察では、環境教育を重視した見学コースの構成が極めて印象的であった。展示パネルや模型、焼却炉の断面模型、粗大ごみ処理工程の実物大説明など、視覚的に理解を促す工夫が随所に施され、施設全体が市民に開かれた学習拠点として機能していた点は、特筆に値すると思った。広域ごみ処理施設を整備する本市においても、単なる処理機能にとどまらず、こうした教育的要素を取り入れることは、市民理解と協働を促す上で大きな効果が期待できる。また、リチウム電池火災への具体的な対応や、近隣自治会との定期協議など、運営面の取組も学ぶべき点が多い。今回確認した事例は、今後の施設計画や運営検討において柔軟に反映していくべきであると考えます。
- ・東大阪都市清掃施設組合の広域ごみ処理施設は、エネルギー再利用による発電や売電、環境学習機能の充実、地元住民からの理解などについても力を入れていると感じた。環境学習については、見学ルートのパネルを職員が手作りで作成し、児童生徒が退屈しないように映像を使用した体験型の物を設置するなど、施設への理解、ごみ問題、環境問題に関心を持ってもらう工夫がとても印象的であった。年に1度、半径1キロ圏内の市民との情報共有の場を設けているとのことからも、常に市民に対して施設状況の理解を図ることの大切さを再確認した。ごみ搬入量が2000年のピークから約8万トン減少している点について、3Rの取組のほかに、消費の減少、人口の減少が要因となっていることを説明されたが、ごみ処理に関わらずあらゆる市の事業においても、これから減少していくことを考慮にいれた事業運営が必要であると改めて感じた。
- ・今回の視察にて特徴と感じたところは、①東大阪市と大東市から出るごみの処理場で、組合を設立し運営している。②敷地内に3基の焼却施設があり、その敷地内で建て替えを行っている。③ごみ処理の燃焼方式は有識者と意見交換を行い、この地域に見合った方式を選択している。今後、本市も広域(岡崎市、西尾市、幸田町)ごみ処理施設の建設を計画している。円滑に運営するために、組合の設立を提言する。また、敷地内に3基の焼却施設があり、順次建て替え更新をしている。本市の計画は1基であるが、将来を見据えて2基、3基建てられる敷地を確保することも検討してほしい。
- ・東大阪都市清掃施設組合は、東大阪市と大東市が共同で管理しており、広域ごみ処理施設はストーカ方式で、今後建設していく岡崎西尾地域広域ごみ処理西尾地区施設と同様の形態であり、参考になる視察となった。組合の管理者は東大阪市長、副管理者は大東市長とするとともに、3者協議を実施するなど、情報の共有と合議を綿密に実施していることが感じられた。また、施設は環境対策を実施していることに加え工業団地の中にあることから、近隣との関係も良好とのことだった。清掃施設組合の敷地には3つのごみ焼却施設が集約されており、寿命を迎えた施設から順次建て替えを行っていることは、大いに

	<p>参考になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第六工場建設にあたり、人口減少を見込み、ごみの排出量を勘案し炉を縮小しての計画になっている。我々の広域ごみ処理施設に関しても、これからの人口動態をしっかりと見極める必要があり、ごみの量に合った施設の規模にすることの重要性を認識した。西尾市がメインで広域ごみ処理施設を進めているが、分別など、ごみの量を減らすことで、燃えかすの廃棄の量を減らす工夫が必要になってくると思う。本市、西尾市、幸田町が今以上に連携を密にすることが重要課題だと感じた。</li> <li>・施設においてごみ収集車が収集したごみをプラットホームから直接ごみピットに投入せずに、一旦収集ごみを受けるスペースを設けていた。これにより、収集車が不慮にごみピットへ落下する危険性もなくなる。また、ごみピット内の異臭がプラットホーム内へ流入することも制限されこととなりとても有効である。施設内説明通路において、小学生の見学者を飽きさせない体験型の説明模型やプロジェクション、破砕機の刃物の実物、マジックペイントなどが多数設置されており、これらは職員からの発想で制作されたようで感心した。是非とも岡崎西尾地域ごみ処理施設への導入を提言していきたい。</li> <li>・東大阪市、大東市で組合運営をする東大阪都市清掃施設組合では、1日最大1,000トンの一般ごみを2基の焼却施設で処理している。対象人口は60万人を超えている。この施設は、一般ごみだけでなく粗大ごみ、資源ごみの受け入れも行っており、1か所に集積されることで効率的な運用がなされている。第3工場、第4工場、第5工場と3つの工場があるが、第3工場は廃止され、第6工場を建設する予定になっている。限られた用地の中で、ここでも効率的な運営がなされている。今後人口減少を見込む中で、建設予定の第6工場は処理能力も抑えている。一番印象に残っていることは、小学生にも分かりやすい映像を使って、3Rの大切さを啓発しているところだ。課題は、どこのごみ処理施設でもいえることだが、リチウムイオン電池による火災発生だが、これは、市民のマナー意識の向上以外、解決法はないであろう。いずれにしても、ごみ減量をいかに取り組んでいくべきか、これも最大のテーマであろう。</li> </ul>
<p>委員長の総括</p>	<p>大型ごみ処理施設(第6工場)の概要について説明を受けた。参考になった点について列挙する。①第5工場もそうであったように、第6工場においても炉は2炉としている。当然だが、片方の炉に異常があったり、点検をしたりする時に炉を停止しない状態で点検、修理が可能にする為と理解した。②炉の熱エネルギーは、本市の中央クリーンセンターのように発電用に再利用している。ただ、発電装置の性能が良いのか、発電能力は非常に良いとのことであった。③余熱利用の発電による収益は約9億円/年(76,871,950kwh)に上る。④災害時に外部からの電源供給が無くても、焼却炉を立ち上げることができ、災害避難所として活用するこ</p>

とができる。⑤現在の課題としては、リチウムイオン電池の火災事故の解決が問題となっている。本市においても同じ問題を抱えているが、東大阪市においても住民への丁寧な周知しかないと考えている。⑥今後の展開としては、プラスチック回収から処理までの検討が必要になってくる。現在、構成市同士で検討はしているが、まずは、プラスチック回収品のストックヤードの確保が問題のようだ。この問題は、西尾市広域ごみ処理施設にも関わる問題かもしれない、計画の段階でプラスチックの収集及び再商品化を検討して、施設として完備する必要があると思う。